

# 日本農業市場学会 Newsletter

●発行：日本農業市場学会事務局

〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町 45-1

摂南大学農学部食農ビジネス学科 気付

TEL：072-896-6000（農学部事務室気付）

FAX：072-896-6003（農学部事務室気付）

E-mail：kumi.soejima@setsunan.ac.jp

## 日本農業市場学会 2021年度大会（東京農工大学） 案内

### 1. 大会日程

7月2日（金）	理事会	17：30～（オンライン開催）
	*各種委員会は随時オンライン開催とします。	
7月3日（土）	大会シンポジウム	9：30～16：00
	総会、学会賞表彰式	16：10～17：10
	オンライン懇親会	18：00～20：00
7月4日（日）	個別報告	9：00～12：00
	ミニシンポジウム	13：00～14：30

### 2. 大会会場：東京農工大学

全て、オンライン配信となります。大会シンポジウム及び個別報告等のZoomのURLは、申し込みフォームにご登録いただいたメールアドレスに、6月30日（水）までにお知らせします。

### 3. 参加費用

大会参加費（資料代含む）	無料
懇親会	無料

### 4. 参加申し込みについて（申し込み期日：2021年6月25日（金）17時

Google フォームの以下のリンクからお申込みください。

[https://docs.google.com/forms/d/1ADkEKp6STIPvfVUy6u3GHBUF02uKExBBDorqLQF\\_6n4/e/dit?ts=60ade797](https://docs.google.com/forms/d/1ADkEKp6STIPvfVUy6u3GHBUF02uKExBBDorqLQF_6n4/e/dit?ts=60ade797)

### 5. 大会実行委員会

実行委員長：山崎亮一

副実行委員長：新井祥穂 Mail：sachiho@cc.tuat.ac.jp

事務局長：観山恵理子 Mail：miyama@go.tuat.ac.jp

## 6. 大会プログラム

### テーマ：グローバル化とローカル化の相克と新たな連携 ーポストコロナ社会における食料・農産物市場を見据えてー

座長：野見山敏雄（東京農工大学）、藤田武弘（和歌山大学）

#### 【大会シンポジウム・座長解題】

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、食料、農産物、エネルギーの国内自給や地域内流通が再評価されている。その一方で、RCEP が将来的なインド加盟を留保しながら締結され、TPP11 への加盟に中国は興味を示している。また、バイデン大統領はアメリカ単一主義から国際協調へと転換をすすめ、オバマ政権時代のメガ FTA/EPA を再度進めようとしている。

農林水産省は食品・農産物の輸出は 2019 年度段階で 1 兆円にも満たないにもかかわらず、2030 年に 5 兆円を目指す政策を推進している。その一方で、「みどりの食料システム戦略」では 2050 年までに有機農業を現在の 40 倍の 100 万 ha に拡大する数値目標を掲げている。また、農家や食品・観光業者などが食や農に携わる多様な事業者が、地域で一緒に新たなビジネスを生み出す「地域食農連携プロジェクト」を始めている。

このような一見矛盾するような国内外の貿易と市場問題について、日本農業市場学会が食料・農産物市場のグローバル化とローカル化の対抗・相克と新たな連携について議論することは、十分意義あることと考える。

第 1 報告では、新型コロナ禍で進展する食料・農産物市場のグローバル化の新局面について分析し、その課題に接近する。第 2 報告では、新型コロナ禍と食料消費の問題をミレニアル世代、Z 世代の消費の特徴を踏まえて明らかにする。第 3 報告では、新型コロナ禍で再評価される食料、エネルギーなどの自給について現状を分析し、広域連携や地域生産の重視について問題提起を行う。第 4 報告では、新型コロナ禍による観光・交流機会の減少が食料・農業・農村に及ぼす影響について沖縄県を事例として、関係者がどのように危機を乗り越えようとしているか明らかにする。コメンテーターは若手研究者 2 名にお願いした。

ただちに解が発見しづらいテーマであるが、報告者及び会員諸氏との議論を通じて、新型コロナ禍が収束した段階の食料・農産物市場について見定めたいと考えている。

●大会シンポジウム	7月3日（土）9：30～16：00	東京農工大学
・会長挨拶		9：30～9：35
・大会実行委員長挨拶		9：35～9：40
1) 座長解題		9：40～ 9：50
2) 報告およびコメント		
第 1 報告 磯田宏（九州大学）		9：50～10：30
「国際農業食料貿易構造の現局面とメガ FTA/EPA」		
第 2 報告 大石芳裕（明治大学）		10：30～11：10
「新型コロナ禍と食料消費問題」		

第 2 報告へのコメントおよび質疑応答	11 : 10～11 : 40
第 3 報告 櫻井清一 (千葉大学) 「ローカル市場問題と食料・農産物市場」	11 : 40～12 : 20
昼食休憩	12 : 20～13 : 30
第 4 報告 内藤重之 (琉球大学) 「新型コロナ禍による観光・交流機会の減少が食料・ 農業・農村に及ぼす影響」	13 : 30～14 : 10
第 1 報告、第 3 報告、第 4 報告へのコメント	14 : 10～14 : 30
休憩	14 : 30～14 : 40
総合討議	14 : 40～16 : 00

### 3) コメンテーター

- ①成田拓末 (弘前大学) : 第 1 報告, 第 2 報告を中心に
- ②戴容秦思 (摂南大学) : 第 2 報告, 第 3 報告, 第 4 報告を中心に

4) 閉会・副会長挨拶 冬木勝仁 (東北大学) 16 : 00～16 : 05

5) 総会、学会賞表彰式 16 : 10～17 : 10

● オンライン懇親会 18 : 00～20 : 00

詳細は、申し込みフォームにご登録いただいたメールアドレスにお知らせします。

● 個別報告 7 月 4 日 (日) 9 : 00～12 : 00

・ 個別報告プログラムにつきましては、6 月中旬に学会ホームページで公開します。

※個別報告を申し込まれた方へ

- ・ 個別報告は各報告、発表時間 20 分、質疑 10 分です。
- ・ 使用するファイルを個別報告前日 (7 月 2 日 (金)) の 17 : 00 までに、座長および企画委員会事務局 (岸上 光克 [mkishi@wakayama-u.ac.jp](mailto:mkishi@wakayama-u.ac.jp)) に添付ファイルにて送信して下さい。その際、メールの題名は「市場学会個別報告：お名前」としてください。
- ・ 企画委員会事務局から事前に座長のメールアドレスや報告論文の投稿等に関する連絡メールをお送りしますので、必ずそれをご確認下さい。

## テーマ「これからの食料・農業市場研究の方向性」

座長：小野雅之（摂南大学）・木立真直（中央大学）

### 1) 開催の背景と目的

21世紀を迎えた20年の間に、わが国の食料・農業をめぐる国際的環境と国内的環境は大きく変化し、そのもとで食料・農業市場も大きく変貌している。

日本農業市場学会では、2000年から2004年にかけて『講座 今日食料・農業市場』全5巻（以下では前講座）を刊行した。前講座は、1992年に設立された学会の10周年を機に、学会の総力を挙げて刊行したものであった。

まもなく学会設立30周年を迎えることを踏まえ、前講座刊行後の約20年間の食料・農業市場の変貌と現状、今後の展望に関する学会としての研究成果を再び世に問うために、本講座の刊行を企画した。

前講座は、国際的にはグローバリゼーションの進展とWTOの発足、国内においては「食料・農業・農村基本法」制定までの時期、すなわち1990年代を主として対象としたものであった。そこで、本講座では、前講座が対象とした時期以降、とりわけ2010年代における世界とわが国の食料・農業市場の変貌を、理論と実証の両面から捉えることを目的とする。その際に、食料・農業市場をめぐる対象領域の多面性を考慮し、グローバリゼーション・国際農業市場（第1巻）、農政の展開と食料・農業市場（第2巻）、食料・農産物の市場と流通（第3巻）、食料消費・食生活・食品産業（第4巻）、環境変化に対応する農業市場と展望（第5巻）を主要なテーマとする全5巻によって本講座を構成することにした。

なお、各巻・各章では、それぞれのテーマをめぐる近年の研究動向を踏まえつつ、2010年代を中心とした世界とわが国の食料・農業市場を、それに影響を及ぼす諸要因、例えば世界の農産物貿易構造、わが国経済の動向と国民生活・食料消費構造、食料・農業政策の展開、農産物・食品流通の変容、農業構造の変動などとの関連で俯瞰的かつ実証的に描き出すことに努めてほしい。それによって、食料・農業市場変容の現局面と課題について、日本農業市場学会としての研究の到達点を示すことを意図している。

今回のミニシンポジウムは、本講座について幅広い議論、および刊行事業の促進を目的としている。ここでは、各巻編者より本講座が食料・農業市場のいかなる問題を提起しようとしているのかご報告いただき、それを踏まえたディスカッションへとつなげる。会員諸氏の積極的参加を求めたい。

### 2) 報告

「世界農業市場の変動と転換」（第1巻）

報告者：松原豊彦（立命館大学）

「2010年代における日本農政の新自由主義的再編と食料・農業市場」（第2巻）

報告者：横山英信（岩手大学）

「多様化する食料・農産物市場とその展開論理」（第3巻）

報告者：坂爪浩史（北海道大学）

「食と農の変貌と食料供給産業」 (第4巻)

報告者：福田晋 (九州大学)

「環境変化に対応する農業市場と展望」 (第5巻)

報告者：安藤光義 (東京大学)

### 3) 討論

報告者を中心として、フロアからの質疑も交えながら討論する。

### 4) 報告と討論の総括

第1巻：冬木勝仁 (東北大学)

第2巻：清水池義治 (北海道大学)

第3巻：杉村泰彦 (琉球大学)

第4巻：森高正博 (九州大学)

第5巻：野見山敏雄 (東京農工大学)